

37.5.10 京都新聞

危機を今こそ実感

理想主義は現実の道

豊田 かつての会議の呼びかけ人として、湯川先生は、大変な仕事をしたものだと思ひますね。私は古いアカデミズムの中で育った人間で、それだけいかに、及ばずながら何かやらなければ、と考へたのは、アインシュタイン、ラッセルの思想にもとづいて開いたわけですが、世間の人は何も考へてない時期に

湯川 他はあらゆる目標に優

位する。この考え方を打ち出し、これが私の、あるいはこの会議のよりどころなんでしょう。これがあるから私どもの会議が開けたんです。大変なことです。あれだけ早い時期に、この考え方を生み、そして実行したとは、豊田 大仏先生、こういう会議は初めてですよ。いかがですか。

大仏 ふん気がよかったです。環境もよいし、集まった人がみんな熱心だし、最初の日なんか一時間もやりましたよ。あきれでもん

だ。僕は科学者は核兵器、湯川さんと呼ばれれば、北極に別れた。いままでの実験物理学の、それを作家からプロセスを、とびこして結論にゆくんだ。だから呼びかけにある結論には最初から賛成で、その道すじをつけたいだろと思つてきたんです。それに世間の人は核実験の危険を感じていながら、あきらめてるところがある、報告をしましたが、このロングレンジの問題をとりあげてきたら、ぼくが出席することで、一般の人にこの会議に注意してもらえればよいと思つたんです。

物理学者と理想主義 湯川 私はアインシュタインを始め、理論物理学者が先頭に立っていることに非常に興味があるんです。アインシュタインが相対性原理を発見したとき、ドイツの実験物理学者でノーベル賞受賞者の

建設的な面へ前進

大仏 理論物理学者は、美し理想家だね。作家は具体的な人物を創造してこれに託して書くから、かえって夢が持たない。世間じゃ作家を夢のある人間だと考へてうですけれど、案外現実的なんですよ。

湯川 物理学者は理想家だといわれるけれど、本当は夢ごひつゆ不安なんです。現在の危機がほんとの人類の破滅に結びつくと、いふ実感があるからですよ。

有意義だった会議 湯川 こんどは作家、経済学者、法律家と非常に多方面の人の話を聞きました。頭を廻らして、ソソグして、それなりの成果を出して、こんなチャンスはなかなかありません。

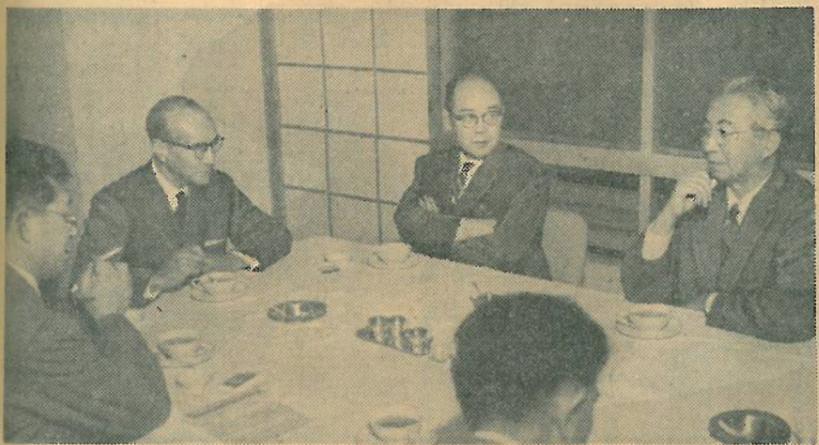
ね。この会議がうまくいけば、はじめ少し心配したんですが、しかし、しほりとして成功だと、目標を達成して、いよいよではないでしょうか。

湯田 私たちは門外漢だけれど、宮沢先生の憲法の話、とくに第九條（戦争放棄）改定反対をトード的によつて、説得ではないという感じが、よくわかりましたね。

日本憲法の第九條 湯川 日本人としてはどうしても第九條の問題に行きますね。湯川 私はこの議題に賛成でなかった（笑）。一般には政治的次元で受けとられないんじゃないかと思つてね。

人類を破滅から救おう

科学者京都会議を終えて



(右から) 大仏次郎、湯川秀樹、谷川徹三の各氏と司会の豊田氏 (左端)

出席者座談会

京大教授	湯川 秀樹
作家	大仏 次郎
法大教授	谷川 徹三
立教大教授	豊田 利幸

大仏 湯川さん、お話を聞いて、心なごころに感じた。谷川さん、豊田さんを始め、記者局をつとめられた若人たちが、実に明らかな知識と判断で私たちに示唆してくれました。感心しましたよ。

湯川 基礎物理の若い人たちなんですが、かえって私たちが引きずられる。それだけに本来は手

軍備撤廃の思想を全世界にひろげる

豊田 核実験の問題、憲法の問題は、あちこちでいわれているんですが、特定団体の運動でもない、この会議でそれがとりあげられたことを、お考えください。

大仏 だれがなんといおうと、核実験反対、戦争反対の結論は決まっています。あなたたちは科学的

な。大仏 知的デカダンスの時代という感じが、谷川さんがい

人間性とりもどせ

大仏 知的デカダンスの時代という感じが、谷川さんがい

